

2025年3月期決算 2026年3月期業績予想 中期経営計画の進捗

オリエンタル白石株式会社（プライム市場1786）

2025年5月29日
代表取締役社長 大野達也



オリエンタル白石株式会社



Agenda

- I 2025年3月期決算概要
- II 2026年3月期業績予想
- III 中期経営計画（2023-2025）の概要及び進捗



オリエンタル白石株式会社



I | 2025年3月期決算概要



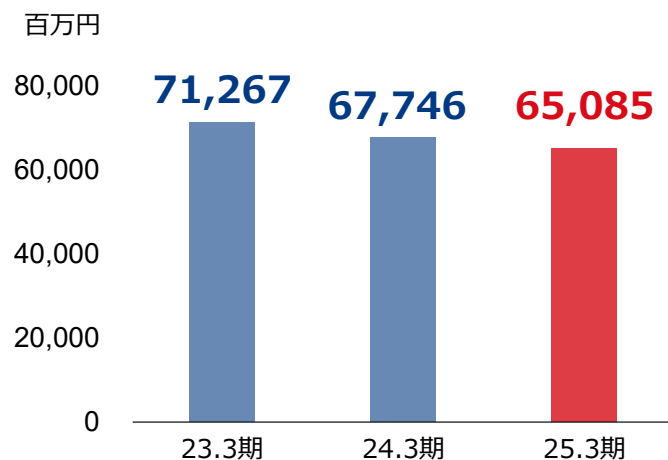
オリエンタル白石株式会社

受注・受注残高

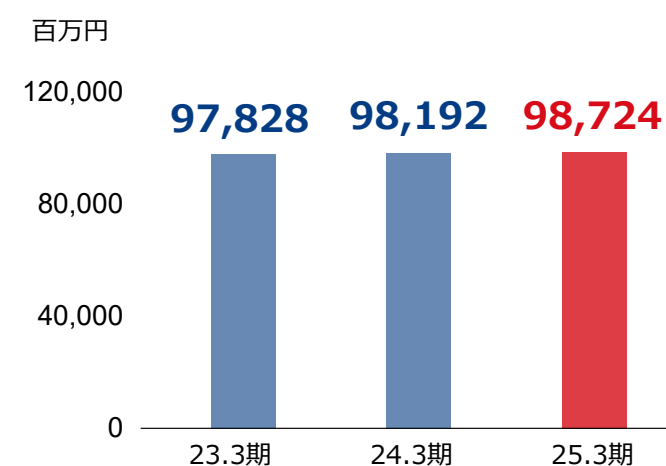
単位：百万円

	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	前期比 増減率 (%)	コメント
受注高	71,267	67,746	65,085	△3.9	ケーソン [*] 工事の期ズレや、新設橋梁の発注量減少の中で大規模更新工事や大型建築案件で一定の受注量を確保
受注残高	97,828	98,192	98,724	0.5	ケーソン工事、新設橋梁工事の減少分を、大規模更新工事、大型建築下請案件でカバー

■ 受注高



■ 受注残高



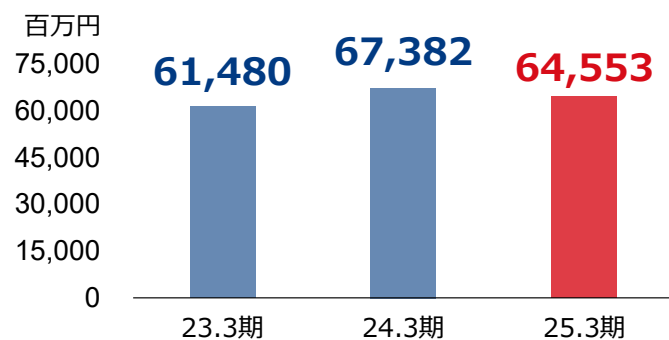
*ケーソン：ニューマチックケーソン

売上・損益

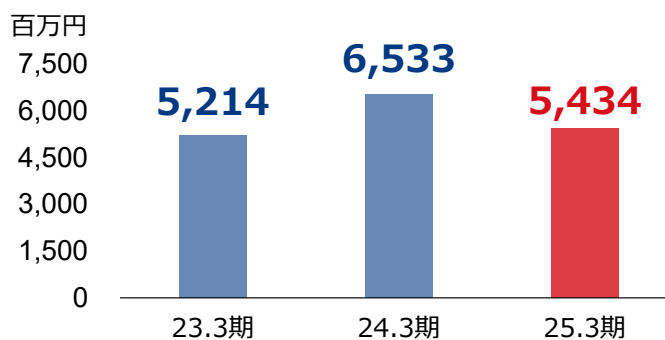
単位：百万円

	2023年3月期 実績	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	前期比 増減率 (%)	コメント
売上高	61,480	67,382	64,553	△4.2	受注時期の遅れや期ズレ、設計変更の減少、工事の一時中止の影響で前期より減少、目標にわずかに未達 売上減に加え、大型の竣工工事の件数や設計変更が少なかったことにより前期より減少するも、目標の利益は確保
売上総利益	10,825	12,614	11,660	△7.6	
営業利益	5,214	6,533	5,434	△16.8	
経常利益	5,427	6,580	5,556	△15.6	
親会社株式に帰属する 当期純利益	3,922	4,632	3,715	△19.8	

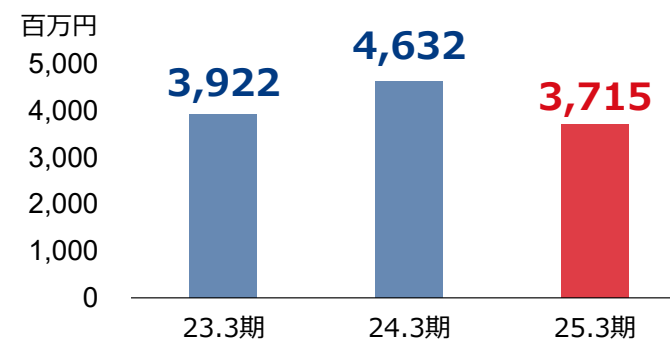
売上高



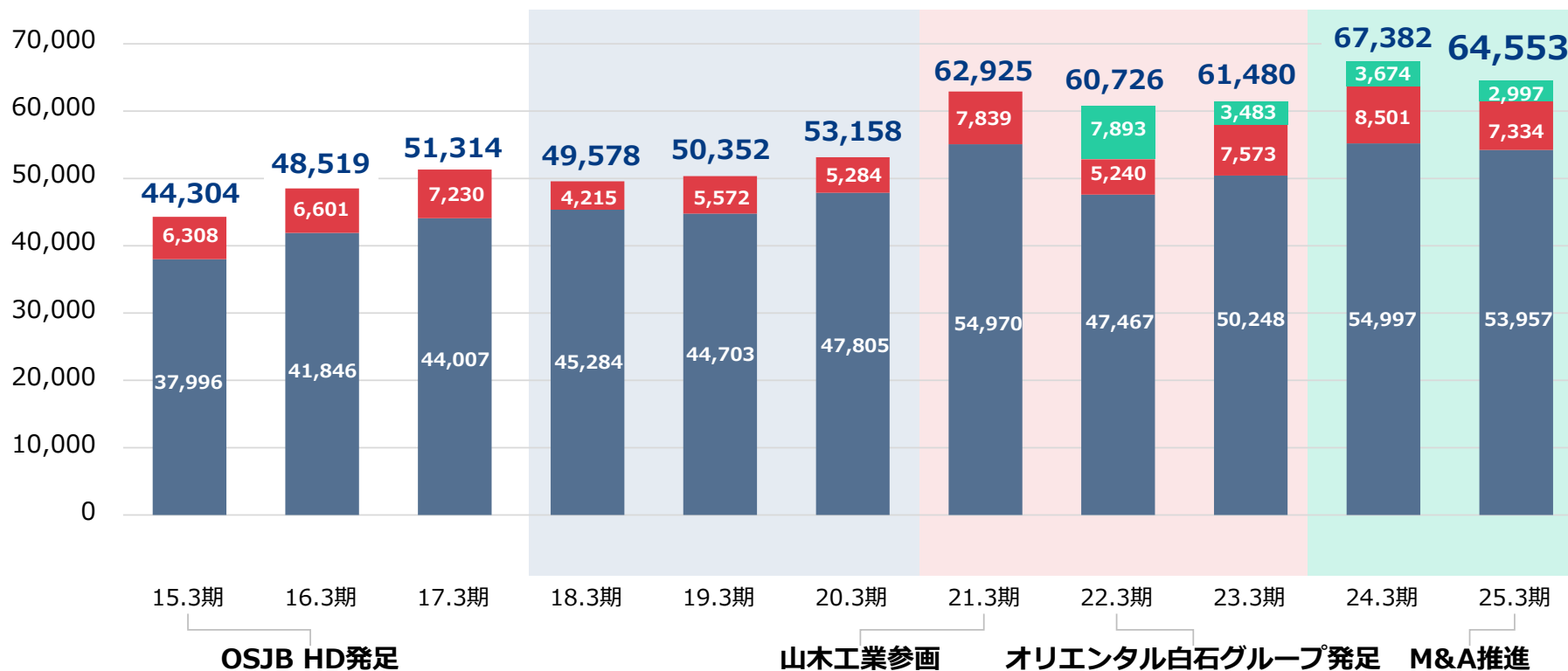
営業利益



純利益



百万円



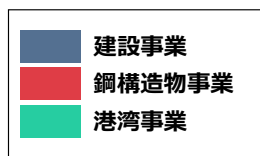
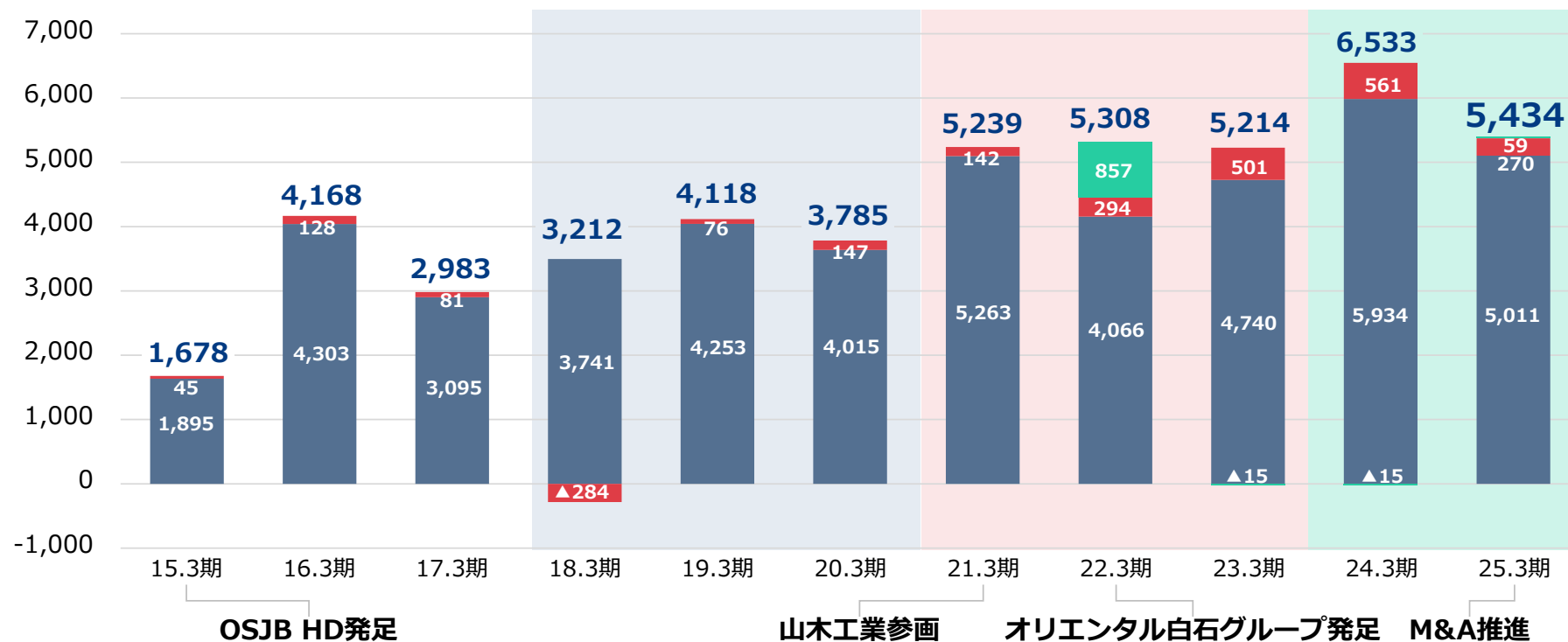
中期経営計画2017-2019
～『らしさ』で築きあげる 安定と成長～

中期経営計画2020-2022
～グループの『安定と成長』を止めない～

中期経営計画2023-2025
～さらなる成長に向けた競争力の向上と新たな挑戦～

* 合計値
その他、セグメント間取引消去等を含む数値

百万円



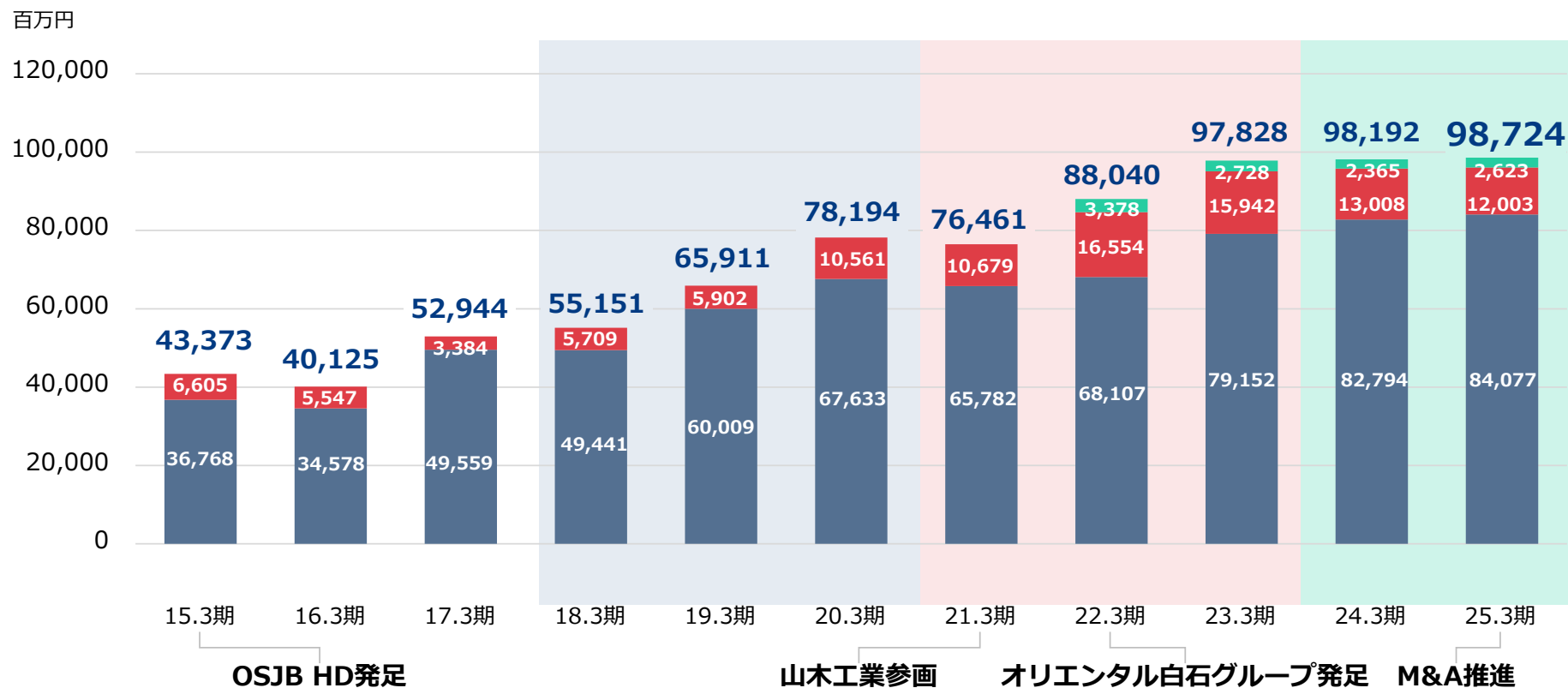
中期経営計画2017-2019
～『らしさ』で築きあげる 安定と成長～

中期経営計画2020-2022
～グループの『安定と成長』を止めない～

中期経営計画2023-2025
～さらなる成長に向けた競争力の向上と新たな挑戦～

* 合計値
その他、セグメント間取引消去等を含む数値

受注残高の推移



中期経営計画2017-2019
～『らしさ』で築きあげる 安定と成長～

中期経営計画2020-2022
～グループの『安定と成長』を止めない～

中期経営計画2023-2025
～さらなる成長に向けた競争力の向上と新たな挑戦～

財務状況

単位：百万円

主な
増減要因

●流動資産

未完成工事支出金.....1,341
受取手形・
完成工事未収入金.....△1,348
未収消費税.....△1,870

●固定資産

有形固定資産.....2,401
のれん.....2,209
* M&Aにより3社の株式を取得

前期比 4,651 (6.3%)↑

主な
増減要因

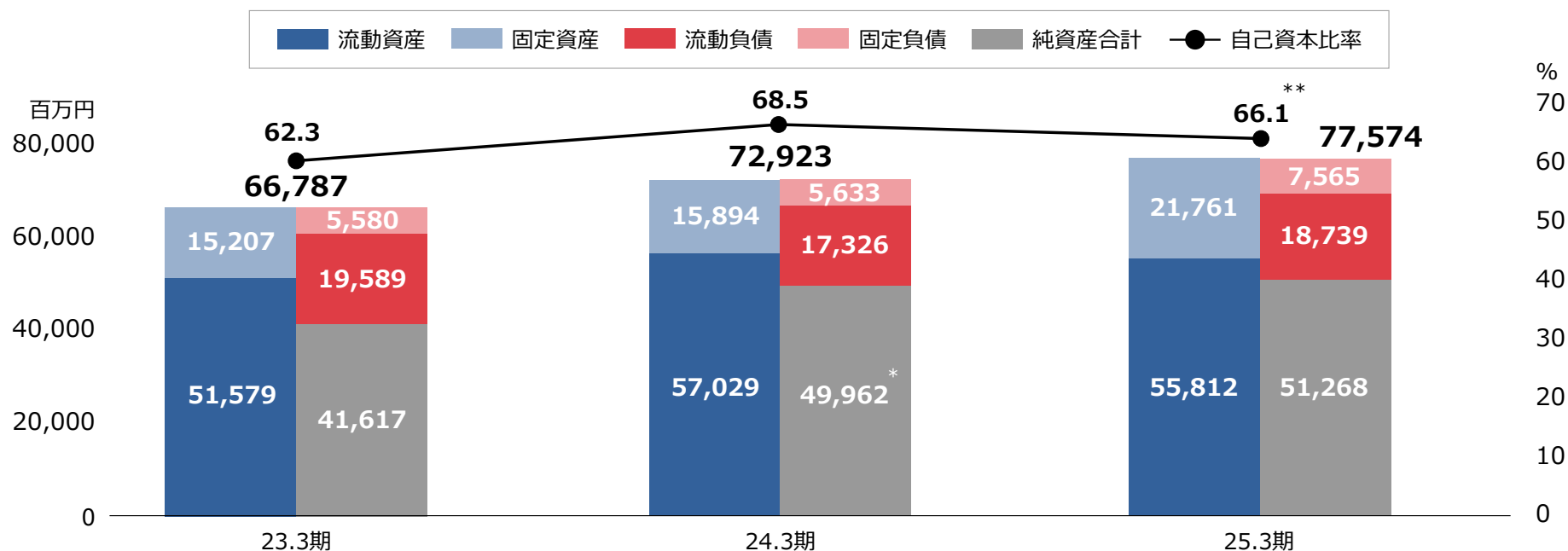
●流動負債

支払手形・
工事未払金.....△1,644
未払金.....743
未払消費税等.....1,423
未完成工事受入金.....838

●固定負債

長期借入金.....286
長期未払金.....1,345

前期比 3,345 (14.5%)↑



*資本業務提携による第三者割当増資により
資本金及び資本準備金50億円増

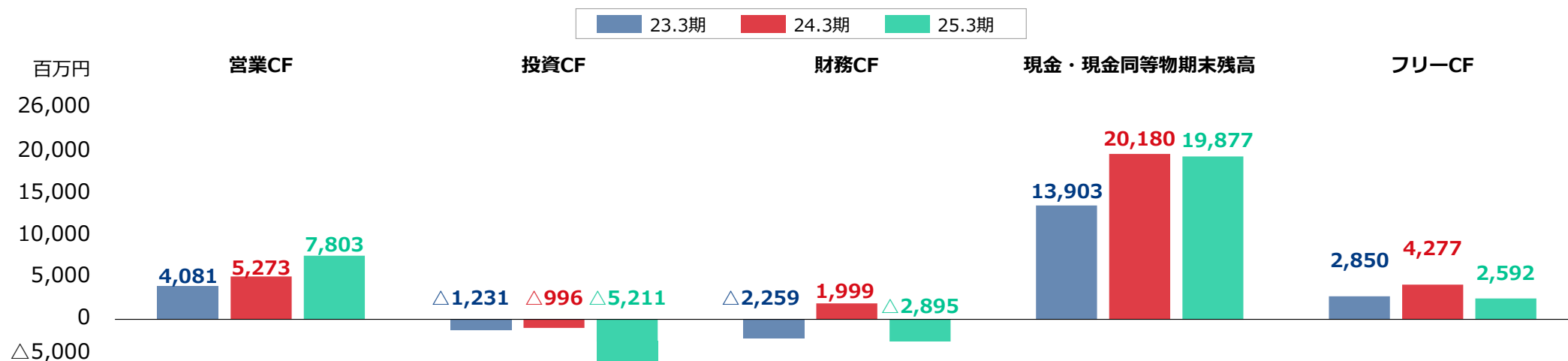
**自己株取得等による純資産割合の減少により
自己資本比率が減少

キャッシュ・フローの推移

単位：百万円

	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
営業CF	4,081	5,273	7,803
投資CF	△1,231	△996	△5,211
財務CF	△2,259	1,999	△2,895
現金・現金同等物期末残高	13,903	20,180	19,877
フリーCF*	2,850	4,277	2,592

*フリーキャッシュフロー = 営業キャッシュフロー - 投資キャッシュフロー





Ⅱ | 2026年3月期業績予想



オリエンタル白石株式会社

01

建設業を取り巻く事業環境

- ① 2025年度の建設投資は、74兆9,300億円（前年度比1.3%増）の見通し
- ② 政府建設投資は24兆500億円（前年度比1.6%増）
前年度並みの予算確保により、防災、減災、国土強靱化やインフラ老朽化対策を継続して実施
- ③ 令和7年度の国土強靱化関係予算
国土強靱化関係予算は5兆3,451億円（うち公共事業関係費は4兆706億円、国土交通省は3兆6,245億円、防衛省は7,856億円）
- ④ NEXCO三社（東・中・西日本高速道路）の2025年度の事業計画（新設、改築及び維持、修繕、災害復旧）は、4兆640億円（東日本：1兆3,064億円、中日本：1兆2,075億円、西日本：1兆5,501億円）
NEXCO三社の2025年度、大規模更新及び大規模修繕の事業計画は、9,772億円（東日本：3,167億円、中日本：2,072億円、西日本：4,533億円）
（前年度：7,605億円、前年度比22.1%増）

①② 4/11建設経済研究所と経済調査会の発表

③ 12月内閣官房 ④ 3/27公表NEXCO三社事業計画

02

当社グループ事業の強みを発揮！

- 高規格道路のミッシングリンク解消及び4車線化、高速道路等の6車線化等において当社グループの新設橋梁（PC橋*、鋼橋）の設計・施工力をもって対応
- 大規模更新事業を始めとするインフラ老朽化対策において、床版取替、橋梁架替、耐震補強、脱塩等の当社開発工法を駆使
- 激甚化、頻発化する台風または豪雨対策の調整池、雨水ポンプ場、貯留管（シールドトンネルの立坑）にニューマチックケーソン工法を提案
- 全国で行われる防衛設備の整備に、当社の建築プレキャスト技術を活用
- 治水、インフラ老朽化、国土強靱化、環境問題への対策にグループ連携して対応

*PC（プレストレストコンクリート）：

高強度の鋼材で圧縮応力を与えることにより補強したコンクリート。軽量で高品質・高耐久

業績予想

■ 建設事業 ■ 鋼構造物事業 ■ 港湾事業

単位：百万円

	24.3期	25.3期	26.3期
	実績	実績	予想
受注高*	67,746	65,085	68,000
建設事業	58,638	55,241	58,000
鋼構造物事業	5,567	6,329	7,000
港湾事業	3,311	3,256	3,000
売上高*	67,382	64,553	66,000
建設事業	54,997	53,957	56,000
鋼構造物事業	8,501	7,334	7,000
港湾事業	3,674	2,997	3,000
営業利益*	6,533	5,434	4,300
建設事業	5,934	5,011	3,900
鋼構造物事業	562	270	300
港湾事業	△15	59	100
経常利益	6,580	5,556	4,300
親会社に帰属する純利益	4,632	3,715	2,800

* 受注高・売上高・営業利益
その他、セグメント間取引消去等を含む数値

コメント

受注高

建設事業 PC土木、補修補強は前期より減少するがケーソンの拡大がけん引

鋼構造物事業 新設橋梁、補修補強、塗装塗替工事をバランスよく受注し、目標達成を見込む

港湾事業 27.3期からの2船団体制を見据え、拠点外の港湾工事にも挑戦

売上高

建設事業 着工・進捗が遅れている工事の工程回復や、新規受注物件の早期着工を図り、売上を確保

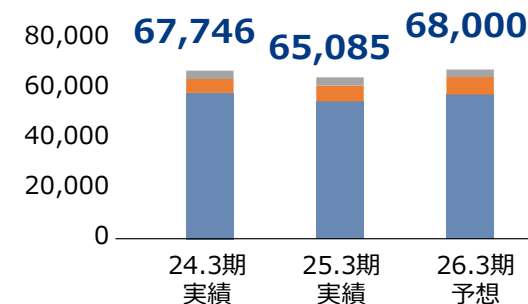
鋼構造物事業 補修補強の元請・下請工事を中心に売上を確保

港湾事業 小名浜港カーボンニュートラルポートPJを数年先に控え、中小港湾土木工事で実績を確保

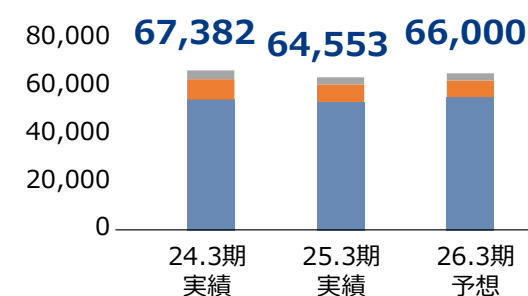
営業利益

利益改善、設計変更で目標達成を見込むとともに、新規受注工事による利益の上積みを図る

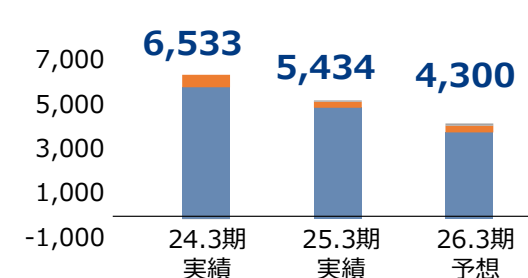
受注高



売上高



営業利益





Ⅲ 中期経営計画（2023-2025）の概要及び進捗

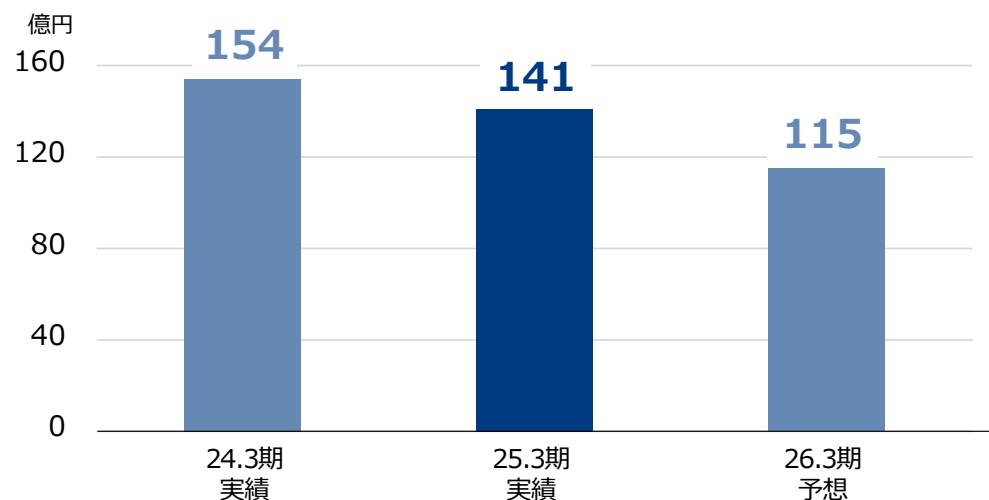


オリエンタル白石株式会社

事業戦略の進捗 (基幹事業)

PC土木 (新設橋梁他)

売上高



施策

- ◆ 公共工事におけるシェアと実績の拡大
 - ① 総合評価力、技術提案力の強化
 - ② 特化工法の採用拡大
 - ③ モノレールや高速道路6車線化等難易度の高い工事での実績

実績

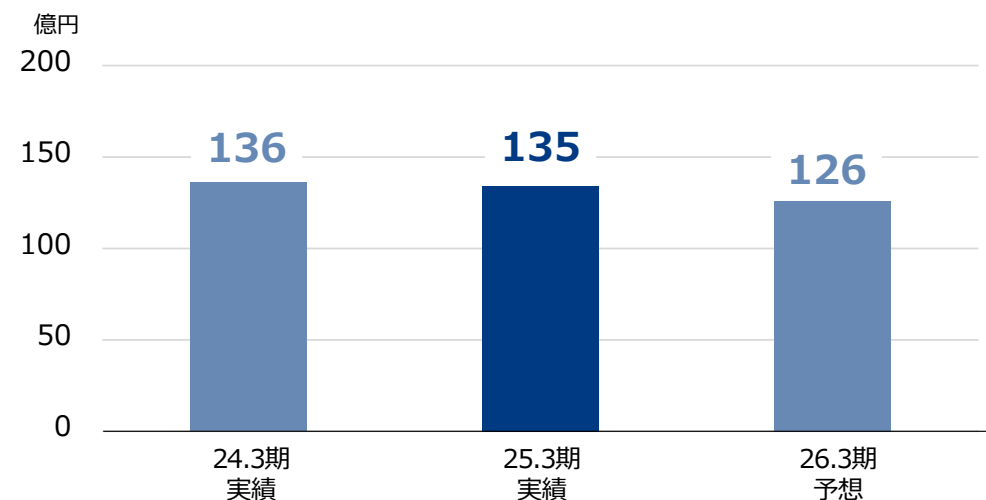
- ◆ 川袋小川橋、北勢第三高架橋3等の大型工事が竣工
- ◆ 江田川橋、水俣川橋等の大型工事も順調に進捗

予測

- ◆ 三遠南信3号橋、熊谷川第一橋等の大型工事が竣工
- ◆ 手持ち工事が順調に進捗

ニューマチックケーソン/一般土木

売上高



施策

- ◆ ニューマチックケーソンの橋梁と治水設備等への事業拡大
 - ① 継続的な設備投資による技術と施工能力の向上
 - ② 技術開発による遠隔化、自動化等生産性と安全性の向上
 - ③ 大型工事の期ズレ影響、その影響緩和を図る技術営業強化による工法の採用拡大

実績

- ◆ 上小山田立坑、笛吹川ケーソン工事等の大型工事が竣工
- ◆ 立坑、ポンプ場、橋梁の手持ち工事が順調に推移

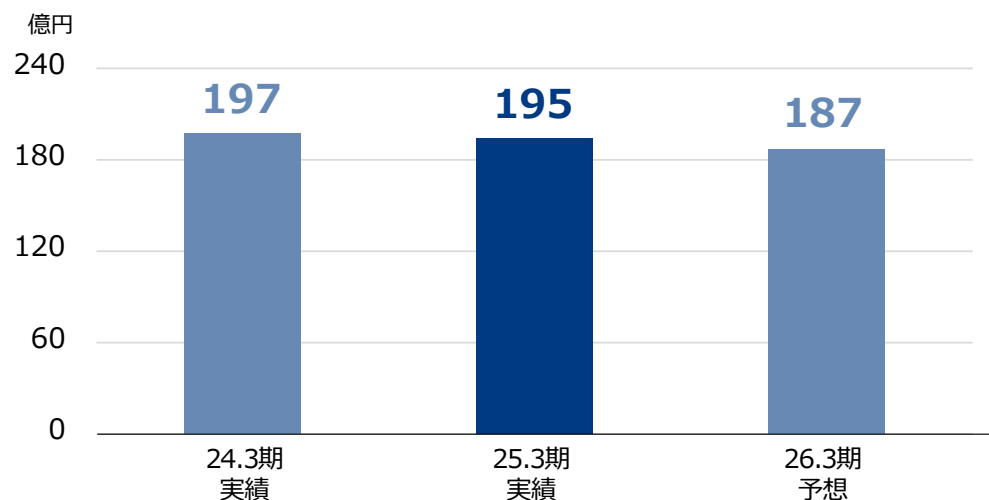
予測

- ◆ 王子給水所配水池、新大宮上尾等の大型工事が竣工
- ◆ 江東ポンプ所、勝どきポンプ所等の手持ち工事も順調に進捗

事業戦略の進捗 (基幹事業)

補修補強

売上高



施策

- ◆ 事業量の確保と収益力の維持を図る
 - ① 特化工法の開発と採用拡大
 - ② 事業量の確保とともに特殊技術によるブルーオーシャンの開拓
 - ③ 長期大型工事の戦略的受注

実績

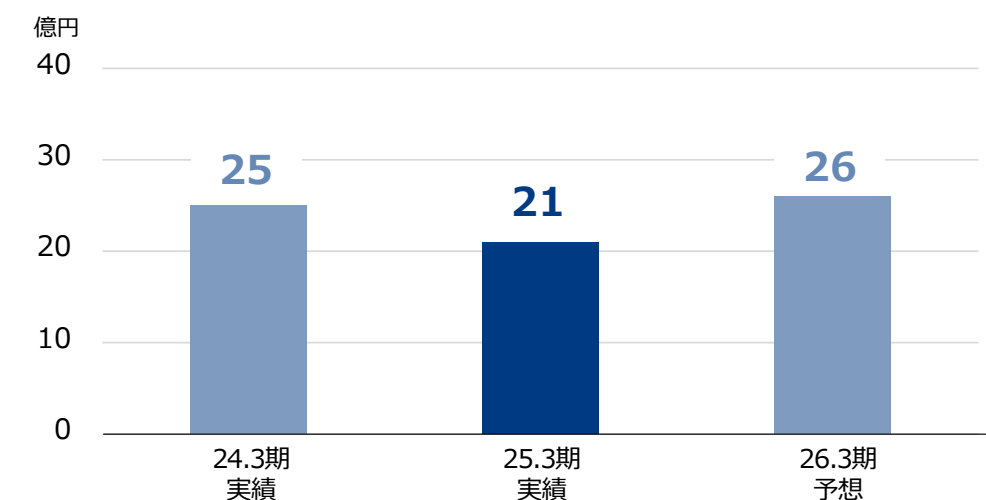
- ◆ 松島高架橋（その1）、富山立山間床版取替（その2）等の大型リニューアル工事が竣工
- ◆ 下部工耐震補強工事も順調に売上

予測

- ◆ 許田高架橋南、前田川橋等の大型床版取替工事が竣工
- ◆ 各下部工耐震補強工事も竣工

PC建築

売上高



施策

- ◆ プレキャストコンクリートのすう勢の中でのPC構造の採用を拡大
 - ① 元請下請連携強化による積極的な大型プロジェクト等への参画
 - ② 顧客基盤の強化と積極的な提案

実績

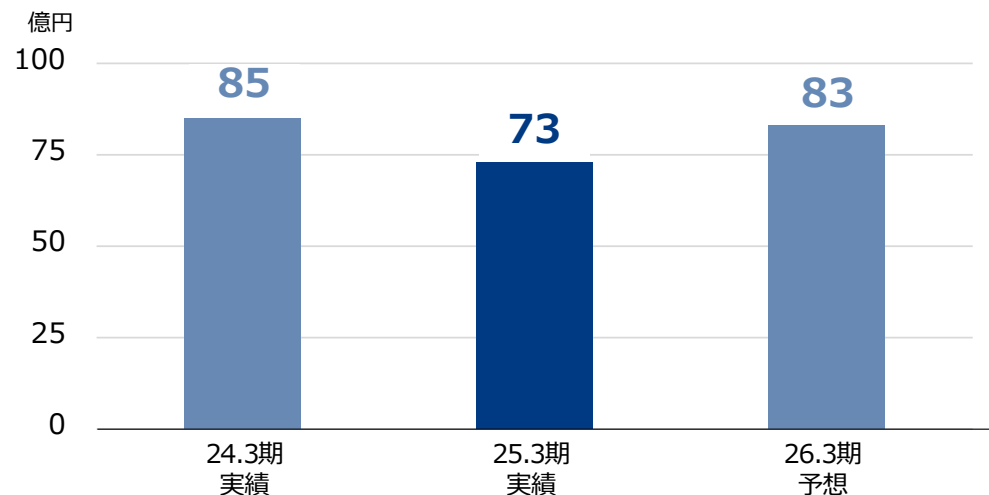
- ◆ 愛知アリーナ、阪神タイガース2軍球場等、競技場・アリーナ関連の*PCa工事が竣工
- ◆ 大阪万博、民間建築工事関連のPCa工事が竣工

予測

- ◆ 大型研究施設に採用されたPC緊張工事が竣工
- ◆ 手持ちの大型防衛施設（武山教育施設）が着工

鋼構造物事業

売上高



施策

- ◆ 新設橋梁と補修補強のバランスの中で売上・利益の拡大を図る
 - ① 総合評価力と設計・施工体制の強化
 - ② IH塗膜剥離工法等鋼構造周辺事業への注力

実績

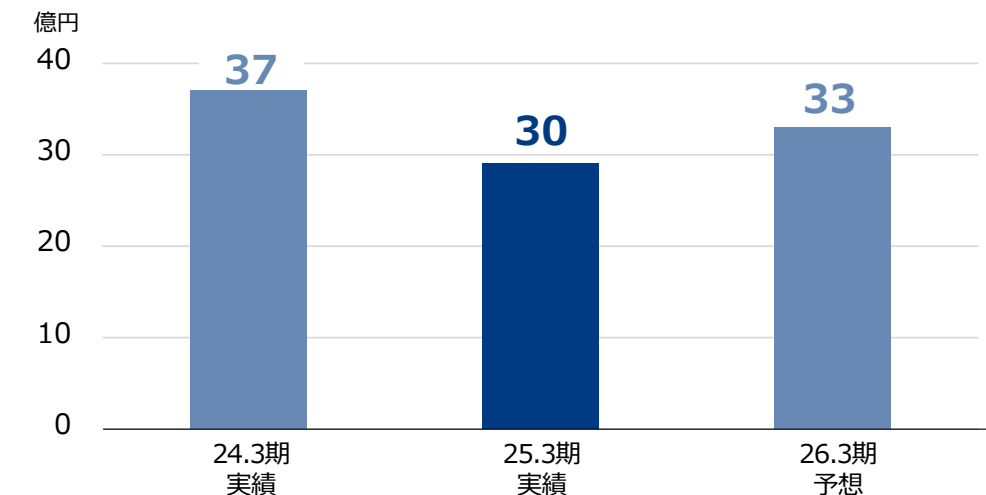
- ◆ 手持ち工事の設計変更獲得で売上を確保
- ◆ 元請新設橋梁、補修補強工事の進捗遅れにより、売上微減

予測

- ◆ 手持ち工事の設計変更獲得を図り売上を確保
- ◆ 原価低減により利益向上を目指す

港湾事業

売上高



施策

- ◆ 港湾、土木の中小工事で受注・売上を確保するとともに今後本格化するカーボンニュートラルポートプロジェクトへの準備を進める
 - ① 地域に密着した事業展開
 - ② グループのシナジーを活かした橋梁事業への展開

実績

- ◆ 中小規模の港湾、建築、土木工事で売上確保
- ◆ 単年度工事が多く、前期比で売上は減少したものの、利益は確保

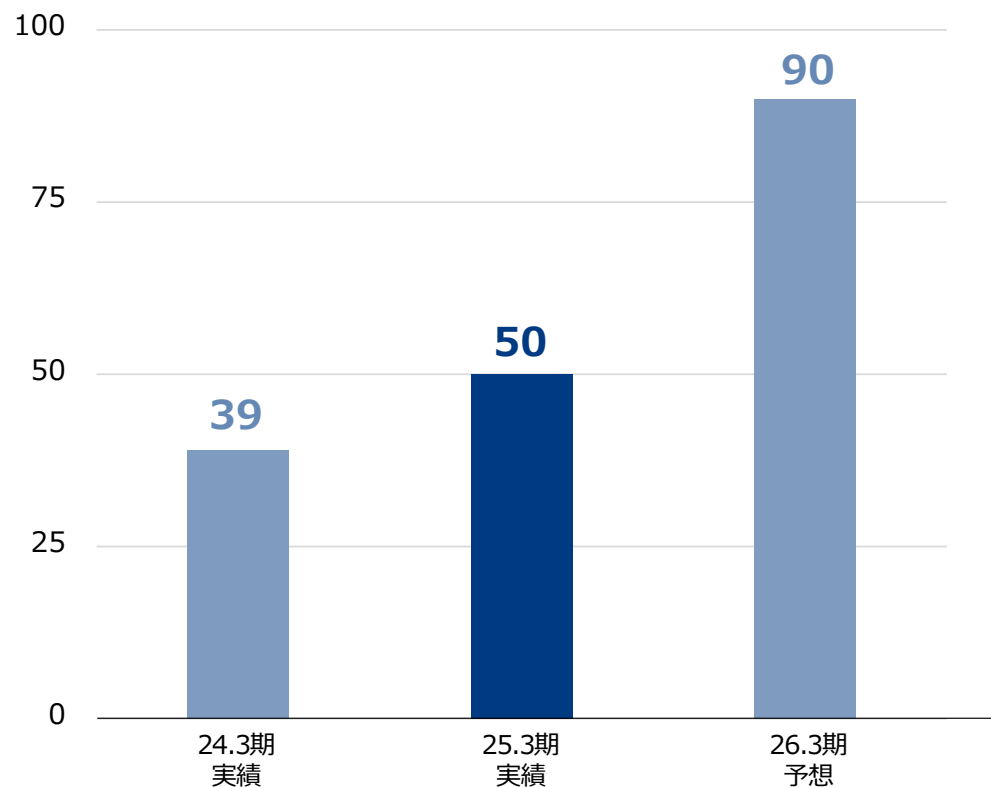
予測

- ◆ 中小規模の港湾、土木工事を中心に売上確保
- ◆ グループシナジーによるPC橋梁工事に着工

新規・周辺事業

売上高

億円



施策

工場製品外販

床板、PCaコンクリート製品の外販

地域戦略事業

地域に強みのある会社を提携やM&Aでさらに強化

橋梁維持管理事業

橋梁の点検・診断、補修、補強、鋼橋塗装塗替

官民連携事業

橋梁インフラ維持管理

海外事業

ニューマチックケーソンやPC・補修補強の技術を他社連携のもと、海外で活かす

環境事業

循環型農業（アクアポニックス）システム外販等

実績

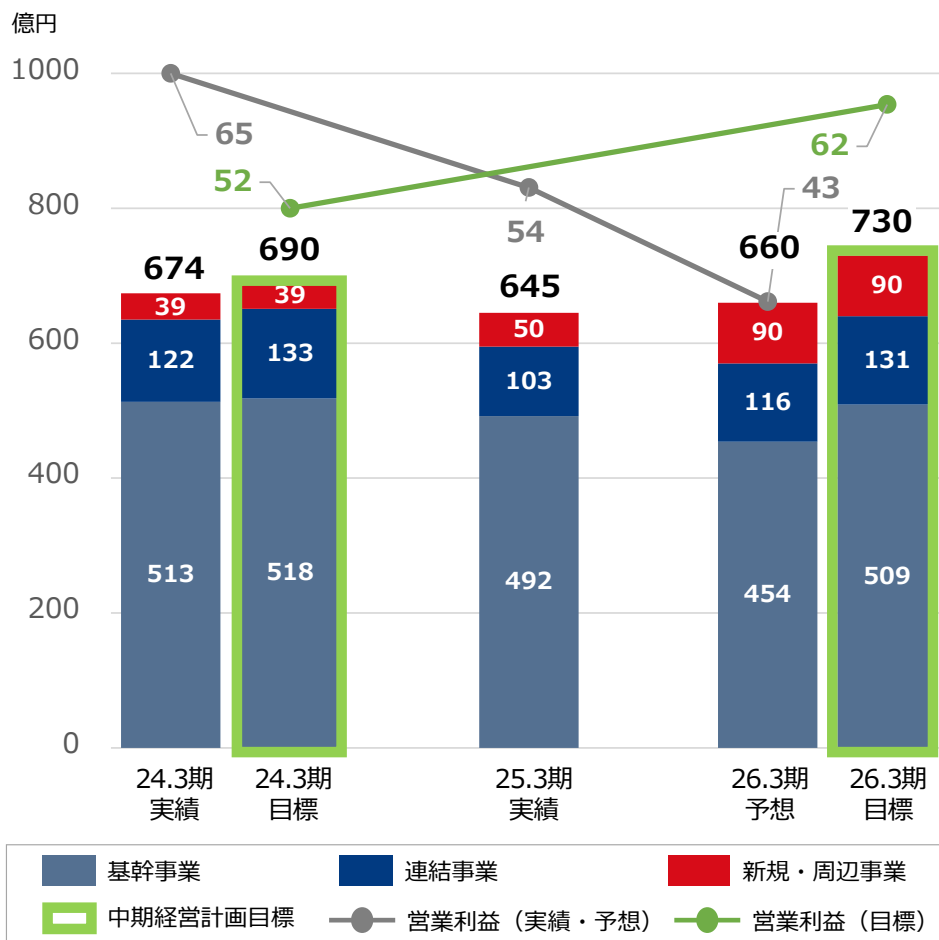
- ◆ 床版や桁等のコンクリート製品の外販売上
- ◆ 海外事業においては、インドネシアでのケーソン技術指導と機材リースとともに、アメリカの施工会社と当社開発工法の技術提供契約を締結
- ◆ M&Aにより3社を子会社化
- ◆ 太陽光発電、不動産賃料等を計上

予測

- ◆ インドネシアでのケーソン技術指導と機械リースを継続
- ◆ アメリカの施工会社との技術提供契約に基づいた支援の実施
- ◆ 伊藤忠商事との協業による床版や桁等コンクリートの販路拡大
- ◆ 官民連携橋梁インフラ維持管理の事業化
- ◆ M&Aにより買収した子会社の売上を伸ばすとともに、さらなるM&Aの推進

中期経営計画 (2023～2025年度)

売上高 (棒グラフ/左軸) 営業利益 (線グラフ/右軸)



◆ 売上高 (26.3期予想値) は以下の要因により、中期経営計画より減少している

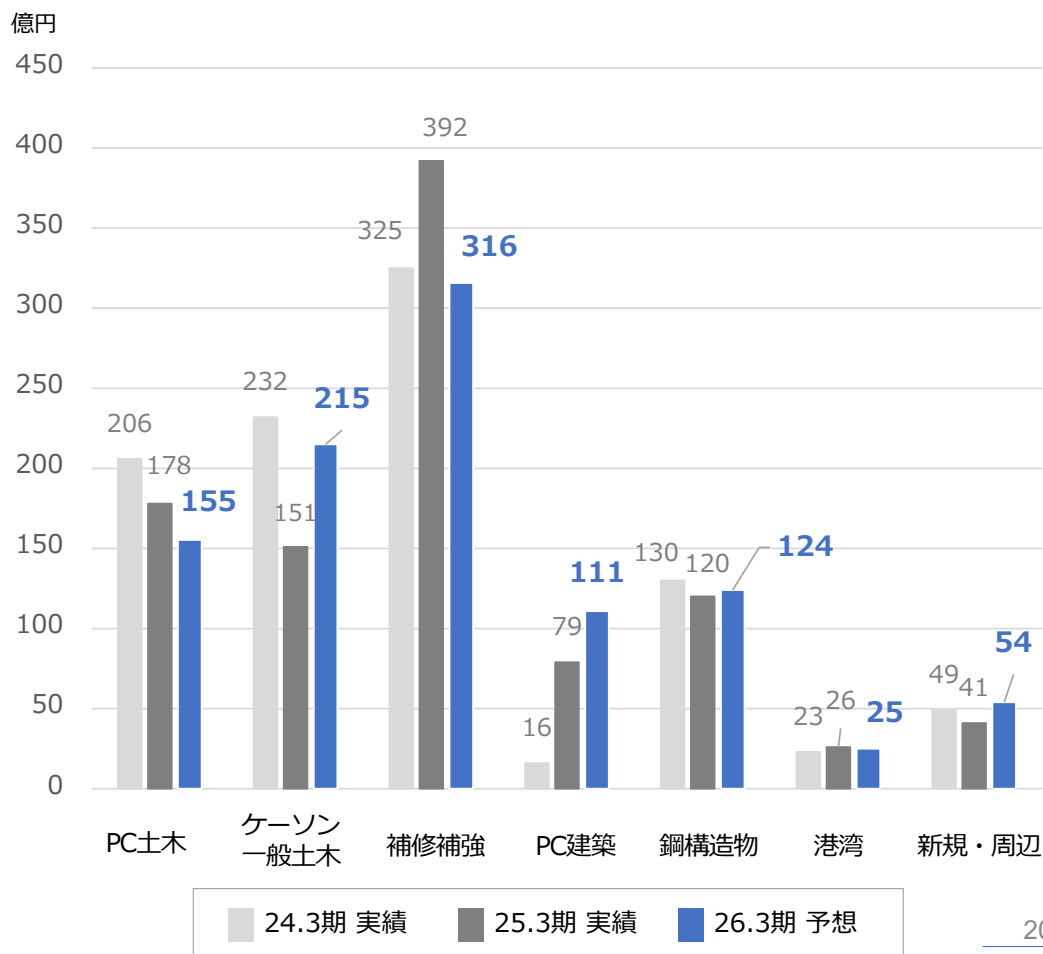
- ・ ケーソン 大型工事の発注、着工時期の期ズレ
- ・ 補修補強 競争の激化、発注量の減少
- ・ 鋼構造物事業 新設橋梁の発注量の減少
- ・ 港湾事業 港湾プロジェクトの開始時期の遅れ

◆ 営業利益 (26.3期予想値) は以下の要因により、中期経営計画より減少している

- ・ 売上額減少による利益の減
- ・ 大型工事の竣工数の減 (設計変更による利益の減)
- ・ 新規・周辺事業 M & A企業における利益貢献への時差 (のれん償却等)

受注残高の推移

受注残高（セグメント別）



受注残高（合計）

単位：億円

24.3期 実績	25.3期 実績	26.3期 予想
981	987	1,000

コメント

- ◆ 26.3期の受注残高合計は25.3期より増加し、OSJB発足以来12年間で最高
- ◆ ケーソン／一般土木は、大幅な受注増で26.3期の豊富な受注残高を予想
加えて27.3期以降、大型ケーソンの継続契約や発注予定が数件控えており、事業のさらなる拡大を予想
- ◆ 補修補強は、大型床版取替の進捗、竣工により25.3期から受注残高は減少しているが、引続き豊富な受注残高を維持
大型継続契約や設計変更が期待される案件もあり、27.3期以降も主力セグメントとして全体をけん引
- ◆ PC建築は防衛関係の受注により26.3期の受注残高は増加している
27.3期以降も、防衛既存施設の更新及び主要司令部等の地下化などの案件により、事業が大きく伸びていくと予想
- ◆ PC土木、鋼構造物、港湾で一定の受注残高を維持しつつ、ケーソン、補修補強、PC建築がけん引する形で、27.3期以降、全体の売上や利益が着実に伸びていくと予想

生産性向上に向けた技術開発

ニューマチックケーソンの自動運転・長距離遠隔操縦

建設業全体における労働人口の減少傾向が続く中、ケーソン工法においても専門技術者の確保が課題である。また、大深度化や大断面化の要求が増加しており、さらなる生産性向上と建設技術者の作業環境改善が求められている。これに対応するために、ICT技術の積極的な活用や現場管理のデジタル化、長距離拠点からの遠隔操作による効率的な施工管理を目指す。また、施工プロセスにおける自動化技術を導入し、作業負担の軽減と安全性の向上を図るとともに、精度と作業効率の向上を目指す。そのため以下の取り組みを進め将来的には、ICTを基盤としたスマートな現場環境を構築し、施工状況や機材の状態をリアルタイムで把握できる管理体制を整えることを目指す。また、危険を伴う作業の自動化やロボティクス技術によって対応することで生産性の向上を図りながら、作業員が安全かつ長期的に働ける環境の実現を目指す。

01 ケーソンショベル 自動運転システム

3D地盤計測による地下測量業務のデジタル管理・効率化、遠隔操縦ショベルと自動運転ショベルによる地山掘削・運搬作業の自動化に関する現場試行 

02 ケーソンショベル長距離遠隔操縦

衛星通信や光回線を利用した、遠隔地から各現場のケーソンショベル操縦の実現を目指す通信試験 

03 計測ログクラウド監視システム

ネットワークを活用して機械計測データをクラウド上に集約し、リアルタイムで故障診断並びに故障を予測することを可能とするシステムの構築

04 ケーソンショベル無人組立・解体

函内作業の低減を目的とした機材接合部の改良並びに無人解体技術の現場運用

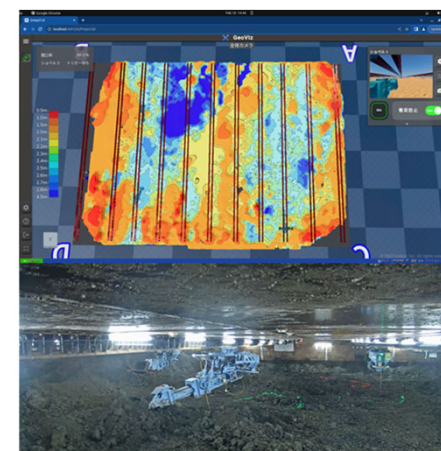


図-1 自動運転システムによる掘削
(上:地下空間可視化、下:自動運転
提供:株式会社DeepX



図-2 豊洲オフィスとつくば研修施設
間の遠隔操縦試験

投資実績 (23.04-25.03)

区分	投資予定額 23.04-26.03	投資実績額 23.04-25.03	投資内容
経常投資	50億円	29億円	継続的な研究開発 (11億円) ケーソン設備・機材の更新 (18億円)
成長投資	110億円	69億円	地域戦略や事業領域の拡大 (43億円) 施工の自動化、省力化の推進 (4億円) 工場の製造能力強化、港湾工事の強化 (16億円) 橋梁維持管理事業への投資 (0億円) 人的資本への投資 (6億円)
戦略投資	60億円	11億円	PCaコンクリート製品製造の強化 (6億円) 官民連携 (橋梁維持管理事業)、地域戦略事業への投資 新規事業への投資 (5億円)
合計	220億円	109億円	

M&Aによる4社の株式取得

株式会社榮開発

取得日	取得した議決権比率
2025/2/26	100%

取得目的

- ◆ 当社及びグループ会社である山木工業の元請受注への効果
- ◆ 当社コネクションを活用した下請営業の強化
- ◆ 新規地場ゼネコンとのリレーション構築
- ◆ ケーソン支援事業への進出

株式会社菊政

取得日	取得した議決権比率
2025/1/31	100%

取得目的

- ◆ 今後予測されるケーソン事業の新規大型案件や高難易度の工事等に対応する「ケーソン事業基盤の強化」
- ◆ 当社、タイコー技建と連携したケーソン施工、整備能力の強化及び菊政の遊休解消
- ◆ 当社のグループ会社となり菊政における安定的な事業量の確保、事業領域の拡大、採用活動の強化等に期待

株式会社デンカリノテック

取得日	取得した議決権比率
2025/4/1	51%

取得目的

- ◆ 今後も市場拡大が予測されるインフラメンテナンス事業の拡充
- ◆ コンクリート構造物の長寿命化、補修に寄与する特殊技術の強化
- ◆ 当社保有の補修補強技術の活用による売上の成長

株式会社ファンテクノロジー

取得日	取得した議決権比率
2025/1/30	20%

取得目的

- ◆ ソフトウェアの商品化に向けた本株式取得による財務支援
- ◆ ケーソン自動化運転等の技術開発にかかる委託先の確保
- ◆ 持続的な技術開発に向けた内製化の実現
- ◆ 相互の技術交流による技術開発に携わる人財の育成

生産設備の増強

滋賀工場のリニューアル

新設PC橋梁や床版取替工事等の大規模更新工事において、生産性向上、省人化、工期短縮の観点より、コンクリート工場製品の需要は拡大傾向。この需要を取り込むため、主力工場である滋賀工場において、①老朽化への対応②ライン拡張による生産性向上③製造のIT化、自動化促進④太陽光発電を用いた環境対策、を意図して生産ラインをリニューアル中



工場完成図



工事写真(ライン棟)



工場写真(協力会社棟)



工事写真(ストックヤード)

港湾事業の強化

新造船の建設

グループ子会社の山木工業では、現在、起重機船の1船団体制のみであるが、①小名浜港カーボンニュートラルポート整備PJへの港湾工事力を強化②小名浜港拠点外への進出③港湾工事のIT化や浚渫能力の向上④太陽光発電による環境対策、を意図して新造船を建造中

人と環境との調和をはかる ISO 9001・ISO 14001
 山木工業株式会社



新造船完成イメージ



建造中写真

自己株式取得

当社は資本効率の向上と経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の一環として、自己株式取得を実施・計画

2025/2/12 自己株式取得を実施

取得価格総額 : 5億円 (上限)
取得終了日 : 2025/3/3

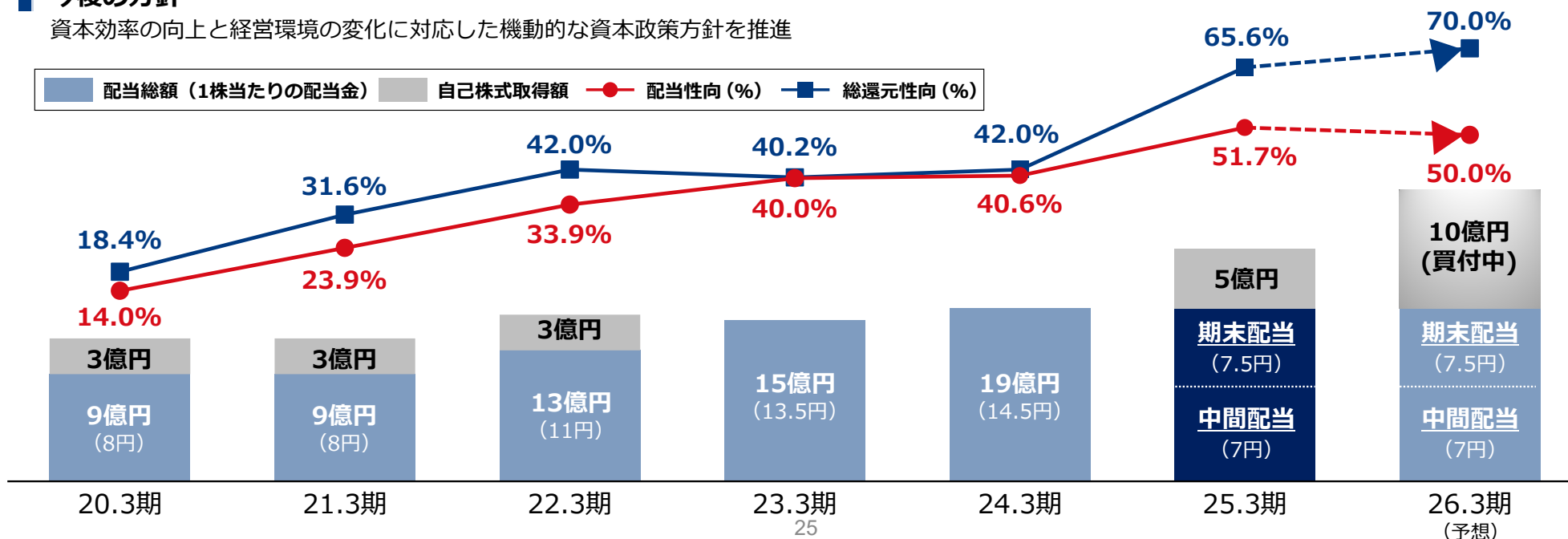
2025/5/13 自己株式取得を計画

取得価格総額 : 10億円 (上限)
取得期間 : 2025/5/14~2025/7/31

今後の方針

資本効率の向上と経営環境の変化に対応した機動的な資本政策方針を推進

	2025年3月期 実績	2026年3月期 予想
配当性向	51.7%	50%以上
総還元性向	65.6%	70%程度





Appendix



オリエンタル白石株式会社

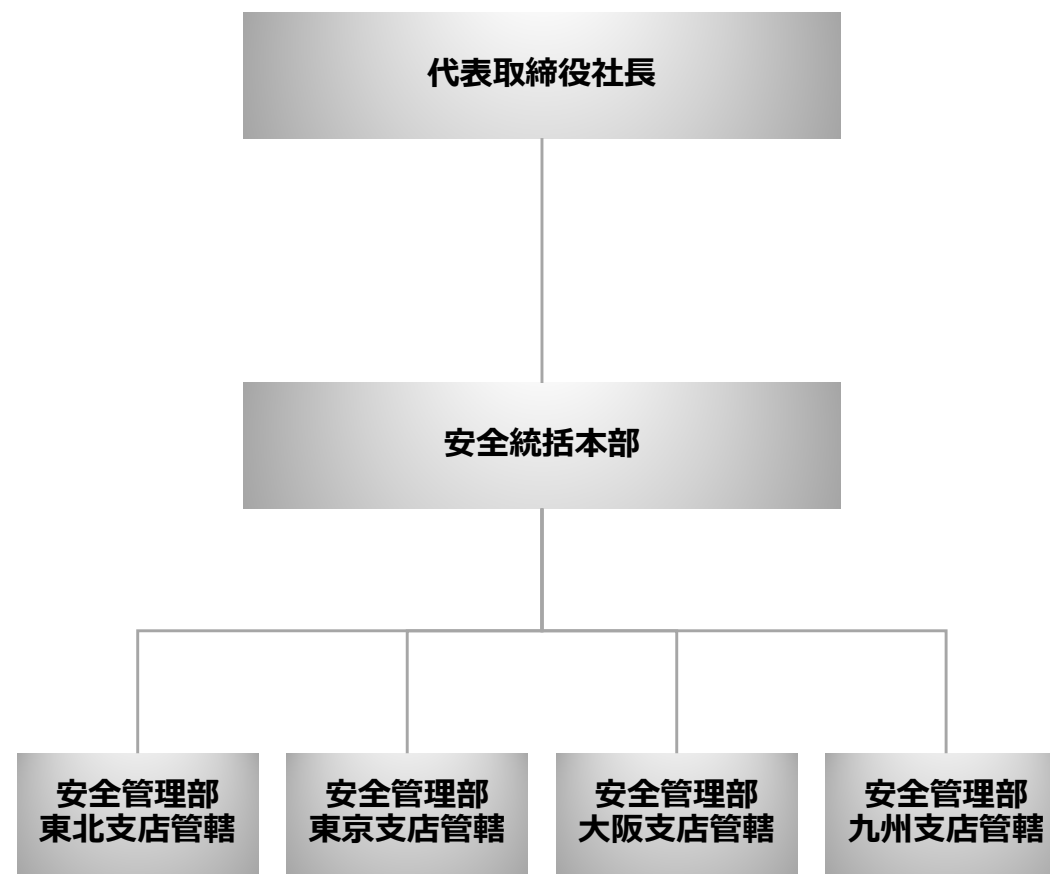
安全統括本部

安全統括本部体制

2025/4/1より**新たに安全統括本部を設置**。土木事業本部、技術本部、管理本部、各プロジェクトと連携し、全社的な安全管理体制の強化を図る。

安全統括本部の活動方針

1. 本支店パトロールの強化
2. 施工検討会、高危険度周知会の強化
3. 執行役員会議における報告及び問題提起
4. 災害事例の周知及び事例研究の強化
5. 好事例集・指摘事例集のデータベース化
6. 若手及び中堅職員の安全教育、研修の実施
7. 安全DXに対する対応
8. 協力会社の管理
9. 安全文化の醸成、安全意識の高揚
10. グループとの連携強化



労働安全衛生に関する技術開発（建設DX・健康経営）

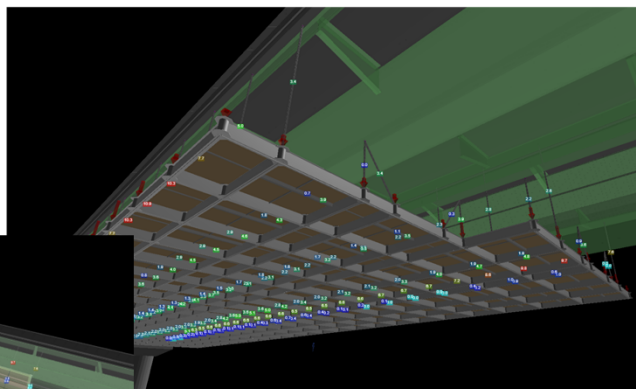
建設現場における安全性向上を目的に、本社技術本部技術部内に、「安全対策開発チーム」を創設して、労働安全衛生に資する技術開発を実施予定

「安全対策開発チーム」では、技術開発に加えて、ニーズ調査、ドローンやWebカメラ等の汎用技術の調査を行い、多くの現場への普及を推進予定

■ 橋梁足場の組立解体時の施工管理システムの開発

橋梁工事で汎用的に使用される吊足場構造において、足場の完成系に加えて足場構造が不安定となることが懸念される組立時や解体時に、吊りチェーンの張力のモニタリングシステムを開発

Excelでの入力データによりタイムリーなVR空間上で吊りチェーン負荷のモニタリングを実現

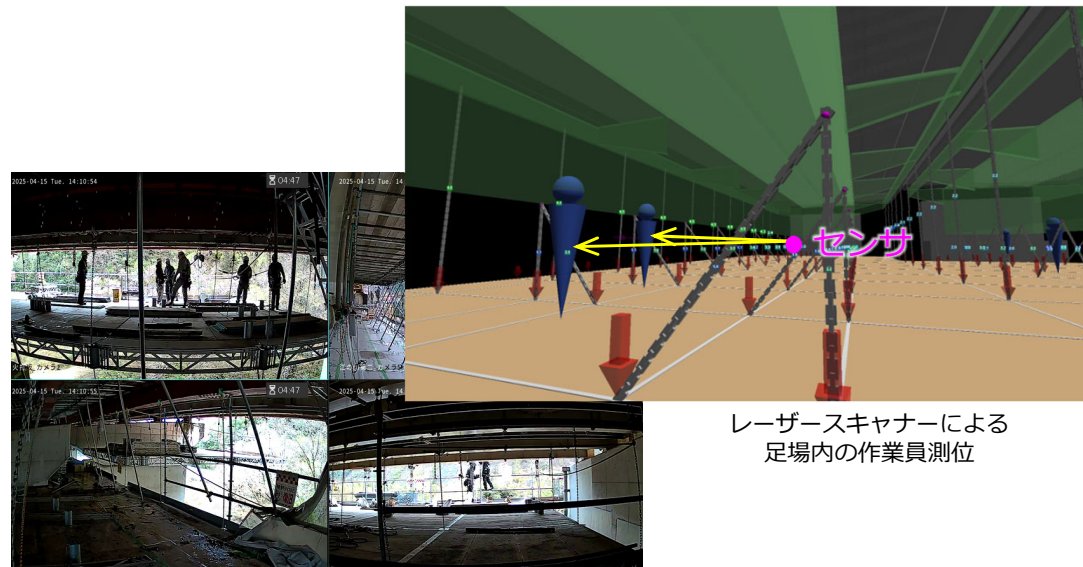


VR空間における組立解体中の足場状況

■ 足場組立解体時における作業員測位システムの開発

足場組立解体時、現場内での作業員の動きや位置を、既存技術であるWebカメラに加えて、レーザースキャナーによっても実施

これにより、予め設定した危険エリアへの立ち入り等に対して、職員に自動でアラートが発信され、不安全行動を防止



レーザースキャナーによる足場内の作業員測位

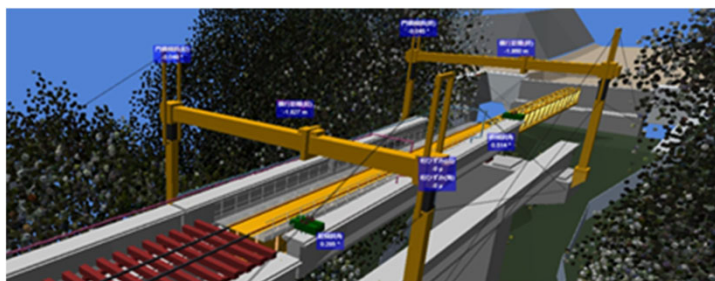
Webカメラによる作業状況の確認

建設DX・維持管理性を高めた新たな構造形式・点検や調査におけるAI活用

労働人口の減少やインフラの長寿命化や維持管理の高度化等の設備建設業界における諸課題に対して、当社が取り組んできた技術開発が、公的機関を含む社外から高い評価を受ける

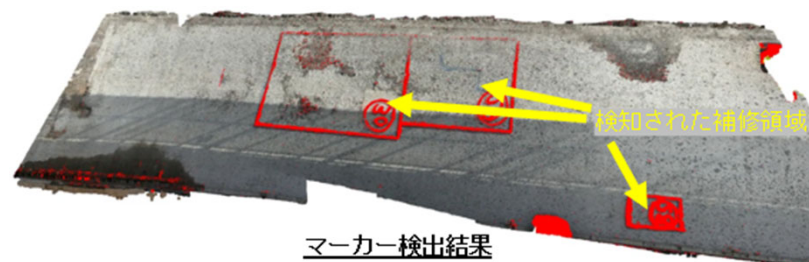
架設作業時のICT施工管理システムの開発

GNSSやレーザー等を組み合わせ、架設中の桁と作業員の位置をリアルタイムで計測パソコン画面上でのVR表示や現場でのアラート・パトランプによって桁下の立ち入りを防止



補修箇所の数量自動算出システムの開発

従来、担当者が1箇所ずつ面積を計測して記録していた補修箇所の数量管理を自動化するシステムを開発
担当者のスマートフォンで現場写真を撮影するだけで、AIが現場の3Dモデルの構築、補修箇所の計測を行い、自動で補修数量を算出するとともに、展開図や帳表を作成する



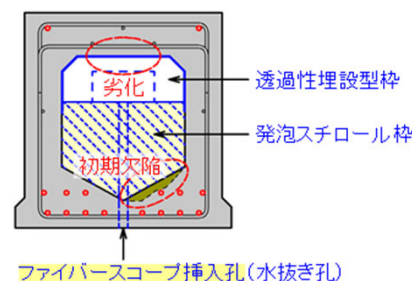
点検可能なプレテンション方式スラブ橋『dVIP桁』の開発

◆「特許取得済み 第7479547号」

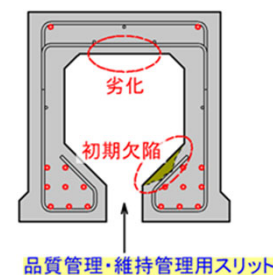
中空スラブ桁橋の課題であった維持管理の困難さを解決する、プレテンション方式スラブ橋『dVIP桁』を開発

目視点検やひび割れ補修が容易に行え、橋梁の長寿命化とライフサイクルコスト低減に貢献

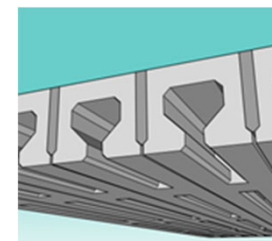
今後の橋梁建設・維持管理の新たなスタンダードを目指す



中空スラブ桁



dVIP桁



dVIP桁配置
(イメージ)

アクアポニックス・メタン発酵事業

アクアポニックス・メタン発酵事業の背景

オリエンタル白石は、農業分野での社会的課題に対し、水耕栽培と養殖を組み合わせたアクアポニックスに着目。ゼネコンの基幹事業で培った技術開発力を活かし、**新しいアクアポニックスシステム「TOSS-APS®」を開発した。**

さらに、同システムから発生する残渣や規格外野菜などを活用し、バイオエネルギーと肥料を高効率に生み出す**TOSsハイブリッドメタン発酵システム**を開発。これらを連携させ、廃棄物を極限まで発生させない**究極のSDGs農漁業**（クローズド資源循環型システムの8の字サークル）を目指し研究を進めている。

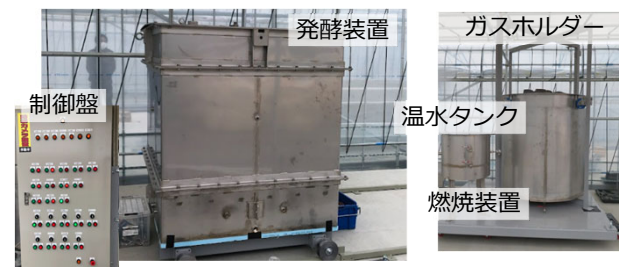
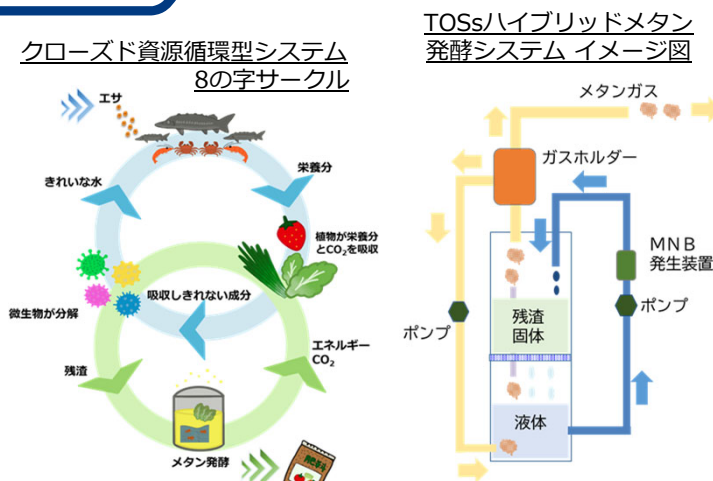
2024年度「脱炭素化・エネルギー転換に資する我が国技術の国際実証事業」

実証要件適合性等調査に着手

ウズベキスタンではエネルギー供給の約73%を天然ガスに依存し、電力の93%が天然ガス火力発電によってまかなわれているが、天然ガス生産量は減少傾向にある。廃棄物処理面では、年間750万トンのゴミが発生し、2030年には1,000万トンに増加する見込みだが、適切な処理施設が不足し多くが野焼きされている。

そこで、同国の**天然ガス依存の低減やCO2排出削減を図り、持続可能なエネルギーシステムの構築に貢献**するとともに、TOSsハイブリッドメタン発酵システムの実証をウズベキスタンで推進するため、現地政府機関や企業と連携したビジネス展開を目指し、NEDOの国際実証事業に応募し採択に至っている。

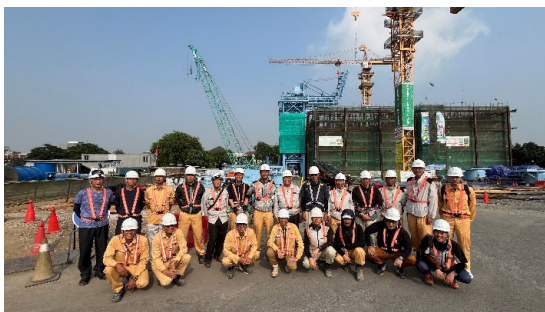
現在、実証要件適合性調査のフェーズにおいて、現地でメタン発酵原料となる廃棄物と同様成分の材料を用いた検討等を実施するとともに、事業具体化に向けてウズベキスタン現地に出向き、資源調査、実証研究施設建設に係る調査、同国のエネルギー・廃棄物処理に係る政策や制度等の調査を実施している。



海外事業

2008年以來の海外工事への参画（インドネシア）

インドネシア下水処理施設工事に
2023年6月より参画
当社はケーソン工法に関する技術
支援と機材リースを実施
今後も当社特化技術を活かした海
外展開を企画



現地の技術支援職員

当社耐震補強工法の海外展開（アメリカ）

当社耐震補強工法（PRP工法／
STEP工法）における技術提供契
約をアメリカST社（Structural
Technologies, LLC）と締結
今後、遠隔または現地支援にお
ける技術支援を実施し、将来的
に契約に基づいたロイヤリティ
収入を期待



アメリカST社訪問

クリエイティブ・ラボ

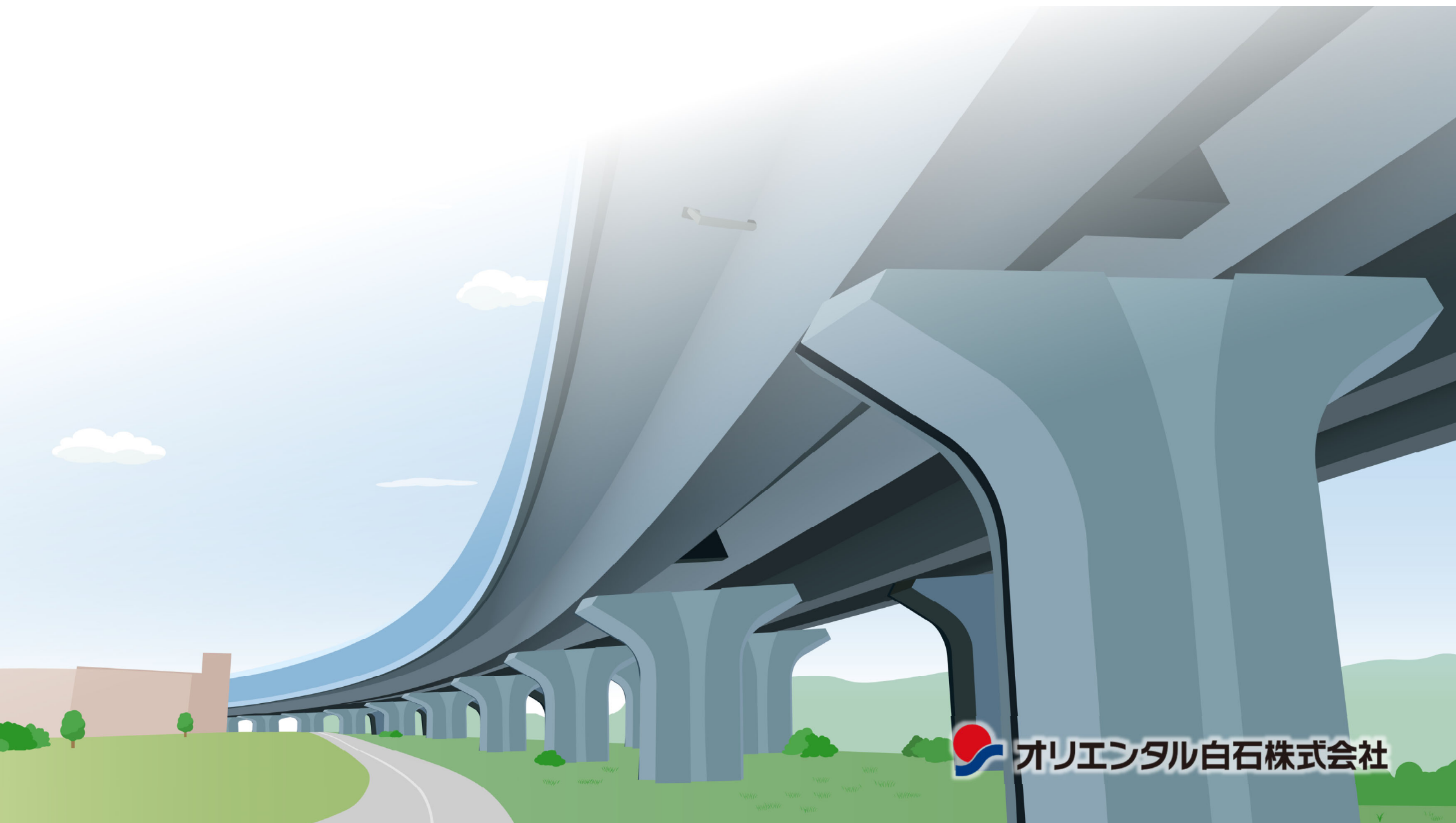
国土交通省北海道開発局

「建設業の魅力発信！動画コンテスト」優秀賞

2025年3月に国土交通省北海道開発局が主催する「建設業の魅力発信！動画コンテスト」において、制作した動画が優秀賞を受賞した
また、日経コンストラクション2024年6月号に特集が4ページにわたって掲載された「CREATIVE LANDプロジェクト」は、建設業界のイメージアップと建設企業の認知度向上を目指しており、昨年度新たにスポンサー企業としてかんぽ生命が参画した。現在約380社の協賛パートナー企業とともに、建設産業の魅力を広めるために、情熱と創造力を持って取組みを推進中



第3回国土交通省北海道開発局
「建設業の魅力発信！動画コンテスト」表彰式



オリエンタル白石株式会社